

雪嶺集

〈宮坂静生 鑑〉

熱海

小林 貴子

リオデジャネイロとは一月の川のこと
狷介を身上とせる試筆かな
遠くまで行きたき日なり犬ふぐり
アネモネや小さき雲に日の隠れ
三寒四温愛想もなき木椅子なり
雪雲の執念きことよ箱根山
鳥つがひ熱海桜の開き急
紅白梅 図屏風の川は滞り
紅白梅 図屏風へすつと入る人
梅が枝をぴんと弾いて恋を告げ



荒星

佐藤 映二

死者生者一つ息なり冬銀河
手に載せて手に無きごとし枯糸瓜
一對の木守榎楯は子規に律
荒星をかぞへ鳥海むねき亡き
アルカイック・スマイル春の闇に泛く
陽炎を行く自転車に相撲取

四季と折り合っ

佐藤 映二

今年も恒例のNHK全国俳句大会が開かれ、去る二月十一日その模様が放映された。ジュニアの部、飯田龍太賞の部を除いた一般の部の応募は四万三千句近くあったという。選者十五人による特選句は、題詠十四句と自由題三十句。これらが講評とともに紹介された後、この四十四句の中から大会大賞五作品が発表される場面を迎えた。その第一句目に読み上げられたのが、橋本幸篤の句であった。それがまた、偶然にも主宰の特選句であったのだから、驚く。

向日葵を鋤き込む北の大地かな 橋本 幸篤

一読、広大な畑に咲き誇る向日葵をトラクターが一網打尽に倒してゆく景が浮かぶ。それが〈北の大地〉北海道ならではの晩夏の耕しなのだ、納得する。耕しは春の季語。秋耕、冬耕も歳時記に出るが、これは新しい。日本列島の広がりを思わせる、太々とした句に感動を与えられたとの主宰評に、壇上の選者たちも納得したよう。

題詠「風」で唯一、大会大賞となった「水中花風あるやうに揺れにけり」(横田青天子)も主宰特選句。こちらは、たまたま堀本裕樹特選と重なった。